

2024年4月30日

2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 ネットワーク・市民アーカイブ

代表者・氏名 代表・増沢 航

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

多摩の市民活動資料を“つなぐ”「市民アーカイブ多摩を媒介とする目録づくり」プロジェクト

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当会は、「市民活動資料・情報センターをつくる会」(2006年設立)として、廃棄されかかっていた多摩地域を中心とする市民活動資料(ミニコミなど)の保存公開をめざし、募金活動を開始しました。立川市内のNPO(グリーンサンクチュアリ悠)からの建物提供の申し出を受け、2013年に当会を設立、資料館「市民アーカイブ多摩」を開館して運営に当たっています(2024年4月、会員・賛助会員計171)。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

市民アーカイブ多摩は2014年開館以来、市民活動の貴重な記録であるミニコミの収集・保存・公開の事業を通じ、多摩に暮らす人びとに向けて貴重な学びの機会や交流の場を提供してきました。この経験を起点に、地域の学びの質をさらに向上させるため、多摩地域の公共図書館、各種資料館などに收藏された市民活動資料の連携を可能にする目録づくりの基礎資料を収集します。それをもとに、市民の交流や学びの場としての役割を持続可能でより豊かなものとするための基本コンセプトの検討に着手します。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

本アーカイブとしての収集・保存を継続するとともに、多摩地域の公共図書館等に保存されるミニコミ等について必要な目録情報等を調査・入力します。また関連資料を保存する法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ(八王子市)との連携を進めるため、意見交換等を実施します。これらの活動を踏まえながら、市民アーカイブ多摩の趣旨を生かした持続可能な将来像を構想するため、会員や専門家の参画を得つつ、基本コンセプトの具体的検討を進めます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

「結果」: 資料の収集・保存を継続するとともに、多摩地域公共図書館等のミニコミ調査を計4館実施しました。法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズと目録作成について打合せ(1回)と共催シンポを行いました。基本コンセプト作成のため、専門家講演(2023年6月4日23人、同24日14人)、会員集会(2024年2月12日、23人)を実施しました。「成果」: 目録作成の基本方針が定まったほか、市民アーカイブの役割拡充のため解決すべき条件や課題の洗い出しが大きく進みました。「社会的な変化」: 市民活動資料保存の意義について集会や紹介報道(『毎日新聞』2024年2月14日)を通じ広く理解を深めることができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

市民活動資料の収集・保存・公開という活動は、長い期間持続することで価値が高まるという性格をもっています。困難な中で人を集め資金を獲得しかに活動を継続させていくか、日々挑戦が続いています。今回のプロジェクトを通じて、この課題を多摩地域という広がりの中で他機関と連携して進める作業が、新しい草の根のネットワークを市民社会のなかで作り上げていくことにつながることを再認識しました。当館の果たすべき役割を再確認しながら、市民の立場からの利便性をさらに増すための「目録」づくりの作業を継続していきたいと考えています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

2023年6月24日講演学習会



2024. 2. 14 (水) 毎 日 新 聞

人手や財源／保管スペース／価値、活用法…

ミニコミ図書館 未来は

立川「市民アーカイブ多摩」開館10年 課題話し合い

「ミニコミ」と言われる市民の活動を記録した資料を専門に収集する図書館「市民アーカイブ多摩」（立川市幸町5）が4月、開館10年を迎える。所蔵資料は当初の1・59タイトルが約8割増えて2099タイトルとなり、約6万点と充実してきた。資料の価値や魅力をどう伝え、どんな人たちに利用してもらうのか。これからどう運営していくのか。スタッフや支える人たちが12日、課題を話し合った。

市民活動家や研究者らでつくる「ネットワーク・市民アーカイブ」が2014年4月、

西武拝島線と多摩都市モノレールの玉川上水駅近くの住宅を借りて開いた。資料は多摩地カブ多摩（市民アーカイブ多摩）が、全国の市民団体から寄贈された。会報や報告書が中心。団体ごとにファイルし「平和人権、女性、原発、福祉などジャンルに分け、開架式で展示している。週1〜2回に開催し、市民や研究者、学生年間150人前後が訪れる。今年度は1月までに177人が訪れた。

課題は山のようにある。現在の場所を使い続けることができるのかははっきりせず、書庫も満杯に近づいて

る。そこで、12日にミニコミって何かという質問にあたり「多摩市ボランティアが集まり、1級建築士を招いて理想の図書館像のイメージ作りをした。居心地のよい図書館や古書店の画像を持ち寄って話した。

開館は毎週水曜日と第2・第4土曜日の午後1〜4時。入館カンパ100円。問い合わせは042・3396・2430（ネットワーク・市民アーカイブ）。

【青島野】

「市民アーカイブ多摩」の今後を話し合っただけで立川市で

「第3種郵便物認可」

書架 A-25A

10 平和・戦争
26 基地
29 十五周年
80 入館10周年
83 女性・人権

満杯になりつつある書庫